

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津特別支援学校

学校番号

111

自己評価

学校教育目標	<p>児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばすことができるように</p> <p>(1) 児童生徒一人一人の障がいの状況や、発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。</p> <p>(2) 仲間と共にとくましく、明るく生きる力を育む。</p> <p>(3) 一人一人が社会自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を培う。</p>
評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」「安全な教育活動・学習活動」「進路指導」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>保護者が学校の活動に対して積極的に関わろうとする姿勢が9割を超えるアンケート回収率からうかがえる。保護者の関心の高さが本校の大きな強みとなっている。アンケート結果からは「教育活動についての積極的な公開」「保護者の意見の教育活動への反映」「児童生徒の可能性を伸ばせるような活動の工夫」「健康で安全で信頼される学校づくり」「進路指導において各関係機関との連携」などの項目では、特に良い評価をいただいた。感染症対策を継続しながら教育活動を行っていることにも肯定的な回答が多く見られるなど、全般的に高い評価を得ている。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>感染症対策を継続し、教育活動が安全に安心して行えるようにする。その上で、児童生徒一人一人の自立に向けた教育活動を行い、保護者が必要とする情報を分かりやすく丁寧に伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心できる教育環境を作る。 ・一人一人の児童生徒の身辺的自立や社会的自立の支援をする。 ・地域との共生を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会 ・企画委員会 ・部会 ・分掌会 PTA役員会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を徹底すると同時に、児童生徒が学びの充実を得るための学習体制や学習内容について検討する。 ・保護者との意思疎通を図り、感染症対策についても適宜連絡を行う。 ・学習研修部を中心に、ICT機器を有効利用した授業研究を進め、更にすべての教員が実践できるように研修を充実させる。 ・オンラインを利用した地域交流を進める。 ・生徒の状況に応じた丁寧な進路指導を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見・感想 ・学校運営協議員等からの意見 ・部内・校内における教員相互の事後評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・健康安全部が中心となり、学校全体で清掃・手洗い・消毒等の感染予防対策を徹底した。給食の黙食も継続した。 ・教務部を中心に学校教育計画を見直し、安心安全な教育活動に努めた。 ・生徒支援部を中心に児童生徒が安心して相談できる環境作りに努めた。 ・学校間交流や居住地校交流などをオンラインで実施した。 ・家庭における感染予防を书面やすぐメールで呼び掛けた。 ・ICT機器を授業に活用する研修を複数回実施した。 ・校内作業実習、就業体験を感染対策に留意しつつ実施した。

評価の視点	評価
① 学校生活のあらゆる場面での感染症対策を徹底し、安心安全な学校生活が送れる体制づくりができたか。	A (B) C D
② 効果的な教育活動を行うために、I C T機器を使った授業やオンラインでの交流など実施することができたか。	A (B) C D
③ 児童生徒の社会自立に向けた教育活動が展開できたか。	A (B) C D
④ 地域に根差した学校として発信したり、地域の人々と交流したりすることができたか。	A (B) C D
⑤ 児童生徒の状況に応じた段階的な進路指導をすることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○感染症予防に取り組み、保護者の協力も得て感染を広げることなく、状況に応じた教育活動を行うことができた。</p> <p>○感染予防対策をとることが、児童生徒及び職員にも日常生活で徹底された。</p> <p>○授業参観や保護者懇談を行い、教育活動を公開し意思疎通に努めた。</p> <p>○運動会や修学旅行、校外学習などの各種行事を感染症対策に留意しつつ実施し、児童生徒の心に残る活動とすることができた。</p> <p>○iPad等のI C T機器が授業で積極的に活用されるようになった。また、その有効な使い方について多くの職員が研修会などを通して学んだ。</p> <p>○学習支援部が主催する研究を通して、教員が実態把握に努め、よりよい授業づくりを行ったことで、保護者から教師の専門性について高い評価が得られた。</p> <p>▲コロナ禍で感染対策のため、作業製品の販売や地域の方々との交流もやむを得ず限定された。新しい交流の機会を作ることが難しかった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症が5類となるが、児童生徒や保護者の意思を尊重しつつ、状況に応じた感染症対策を促し、安心安全な教育環境を維持する。 ・I C T機器利用が校内で一定の定着を得た。今後は教育効果を高めることができたI C T機器活用事例を蓄積していく。 ・タブレットを利用した効果的な授業や働き方改革につながる教材づくり等について研修を継続し、教員の技能を高める。 ・単元計画を練りながら、児童生徒の実態に応じて必要とされる支援を見通しをもって行い、児童生徒の自立度を高めることにつながる授業を行う。 ・作品展示や作業製品販売を通じて地域との連携を深める効果的な方法を検討する。 ・進路学習や作業学習を継続し、児童生徒の進路実現に向けてつなげる方法を探る。

学校関係者評価 (令和5年2月2日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の成果発表を見て、こんなこともできるのかと思わず涙が出た。小規模校ならではの仲間づくりができています。 ・高等部の進路実現に向けての取組も素晴らしい。 ・教育の場として、学問だけではなく大切なものを教え育てる学校であり続けてほしい。
--